

コード・ベルトの編み方

2012.3 XRQ TechLab

細いロープ（コード）をいつも身近においておくとう便利です。手の延長線上の役割として、ものを押さえておいたり、くっつけておいたり、吊しておいたり、引っ張ったりといろいろ使えます。

コードを持ち歩くときそのまま束ねたのでは嵩張りますし、不都合なことが多いものです。そこで、ベルトのように編んでしまい、どうしても必要なときには解いてコードとして使えるようにしたらと考えました。



コードの長さのおおよそ10分の1の長さになり、しっかりと編み込むのでベルトのような感じになります。

バックルのような金具を付ければブレスレットのようにもなりますし、写真のようなリングを付けるとファスナーの引き手などにも活用することができます。

二本のコードの周りにコードを編み込んでいますので、強度的にはコード2本分と同じくらいになります。編み込むことで強度が丈夫になるわけではありませんが、いざというときには素手で編んであるのを解くことで適当な長さのコードに戻ります。

その他にもこのような形態にすることで使える用途があると思います。編み方も簡単ですので是非チャレンジしてみてください。

必要なもの

- ・リングまたはバックル 両端を処理するために使います。
- ・コード 3mm～5mmφのものが編みやすいようです。

① 編む前の準備



コードを二つ折りにし両端をリングやバックルで処理します。

この両端の間の2本のコードをくるむようにコードを編んでいきます。

おおよそ、コードの長さの10分の1ほど長さです。

② 編み始めの処理

一回ごとに締め付け形を整えながら編んでいきます。

最初のリングへの固定方法は写真のように結びつけます。

本結びのようですが、間に芯になる2本のコードが入ります。これでしっかりとリングと結びつけてしまいます。



③ 編み方



右側のように下から出てきた方のコードを芯になる2本のコードの下を通します。

ここにできた輪の中に左側のコードで右側からのコードと芯になる2本のコードを包むようにしながら通します。

左右のコードを締めると結び目ができます。

今度は先ほどと左右が逆になり左側がコードが下から出てきたようになり、右側は輪の中をコードが下に向かっていくようになります。

次は左側のコードで輪を作りながら芯となる2本のコードの下をくぐらせ、右側のコードを輪の中を通します。

この繰り返しです。





④ 横から見ると

再度のコードの状態はちょうどジグザグのようになっています。

締め付け方を一樣にするようにすると形もきれいになります。

⑤ 平らな面の様子

こちらもコードがジグザグと規則的になっています。

左右交互に編み込むことがポイントです。一方からの編み込みになると全体が螺旋のようにねじれてきます。



⑥ 編み終わりの様子

芯を包み込むようにして編んできたなら、できるだけ編み目が密になるように詰めていきます。

最後は写真のように左右のコードが出た状態になります。余りのコードを短く切り、接着剤で固定すると見栄えのよいものになります。